

1. 教育の責任

国際社会における様々な問題について、それがどのような問題なのか、なぜ起こるのか、どうすればよいのか、以上の3つの問いをめぐり、どん欲に知識を求め、真剣に、かつ粘り強く考え抜いて答えを見出そうと努める、真の意味で「意識高い」人間へと成長を遂げるよう、全力で学生諸君をサポートすることが使命だと考えている。

「国境を超える発想」（講義、国際関係学メジャー必修科目、春学期、2単位、受講者数78名）

「データで読み解く国際社会」（演習、国際関係学メジャー必修科目、秋学期、2単位、44名）

「ゼミナールⅠ・Ⅱ」（演習、春・秋学期各2単位、7名）

「卒業研究」（演習、通年、4単位、8名）

2. 教育の理念

国際問題を学ぶ際には、当の問題を「他人事」で終わらせないことが大切だと常に意識している。国際問題に対し、傍観者としてではなく、当事者として問題克服への道筋を皆で一緒に考えなければならない。このことを学生諸君そして私自身が繰り返し自覚できる機会として、授業を活かしていきたい。たとえば、今年度上記科目にて学生諸君の関心を強く引きつけたもののひとつに、援助のアイコンと呼べる事態がある。一例として、いわゆる第三世界向けの古着寄付があがる。状態の悪い服が、先進国市民から侮蔑的に送りつけられる一方、現地社会ではすでに古着量が過剰で、処分に困ったあげく不法投棄され環境問題も起こしている。こうした善意の押しつけと呼べる事態を筆頭に、国際協力・支援のもつ問題性を捉えることで、国際問題の実態を多面的に把握し、その上でよりよい国際関係構築を展望するための場となることが期待される。

3. 教育の方法

方法上の基本的なスタンスとしては、国際社会のダイナミズムを理解できる環境の整備を意識している。

「1.教育の責任」であげたものを含め、担当するメジャー全科目では、ノート・テイキング用フォーマット・ファイル（pptx形式）をエルキャンパスにて事前に配布し、活用を勧めている（強制とせず、任意活用と案内）。講義では、このフォーマットの完成版をスクリーンに映して授業を進める。ノート・フォーマットは、スライド各所に伏字を設けて、それらにキーワードを充てることでノートを完成させることができるようになっている。スライド各部にて、YouTube動画や関連ウェブサイトのURLを貼り付け、（持ち込み）端末にてクリック、タップなどして、ノート作成とともに各種情報を参照できるようにしている。出席者は、設けられた時間にてこれらコンテンツの視聴や閲覧をする。

このノート・フォーマットだが、予習読本も兼ねている。授業各回で当日3日前に配布しているが、その際に予習読本として事前の読み通しを要求している。またその際に出てきた質問・意見もメールにて受付けている。実際に質問などの反応もあり、授業当日で紹介し、質疑応答や意見交換、討論に活かしている。（「添付資料」にて一部を見本として提供したい。）

4. 教育の成果

「3.教育の方法」で取り上げた、ノート・フォーマットを用いた授業運営は、履修学生のあいだではおおむね好評である。事前に自らのスタンスについて考え、授業に望めているのではないかと考えている。3の末尾にあげているが、履修学生から意見交換の話題が持ち込まれることがあり、意見交換や討論が大変盛り上がることもあった。本学学生諸君は、比較的内向的な者が多いというのかねてよりいわれているところだが、私の担当科目の場合、留学生や外国出身学生が話題提供や意見表明を率先しておこない、それに応じて日本人学生も積極的に発言するなど、場の盛り上がりが何度もみられ、刺激に満ちた授業が具現している。

5. 改善への努力と今後の目標

「1.教育の責任」で示した科目「データで読み解く国際社会」について、受講者数に着目したい。左記科目では、インターネット検索をとおして、統計情報、画像・動画による対象地域の様子、動画・テキストによる識者の解説を収集し、それに基づいて毎回出されるトピックに関して、分析と考察に取り組む。このようにして、インドア環境でのクロスバウンダリー学習を試みている。フィールドワークに伴うアク

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：国際日本学部 名前：坂本 真司 作成日：2025年12月10日

セシビリティ上の困難を緩和し、無理なくクロスバウンダリーにチャレンジできる点を魅力と位置づけているが、履修者数をみる限り、一層のポピュラリティを獲得せねばと感じている。内容の吟味をしつつ、粘り強く継続させることで、当該科目に関する学生間の周知化に努めたい。

【添付資料】

「国境を超える発想」第9回授業「グローバル化の光と影：ファストファッション」ノート・フォーマット（ファイル名「no9_note_format」）

国境を超える発想

担当：坂本真司

第9回 グローバル化の光と影：ファストファッション

前回おさらい

前回第8回「情報のグローバル化」では、以下のことを学んだ。

グローバル化確立の経緯

情報メディアの影響力 具体的には **X X X X X X X**

通信衛星を用いた **X X X X X X X** の国際化

グローバル企業の **X X X X X X X X**

グローバル・コンテンツをとおして**グローバル商品への欲望喚起**

今回の目的

ファストファッションの意義と問題性を知る

グローバル商品であるファストファッション

- | | |
|------------------|--------------|
| 1. ファストファッションの概念 | その価値 |
| 2. Haulerの増殖 | グローバル化の契機 |
| 3. 開発途上国での悲劇 | 労働問題と環境破壊の招来 |

以上3つのトピックで、**ファストファッションの問題性**を明らかにする。

ファストファッション (fast fashion)

概念

流行を採り入れつつ低価格に抑えた衣料品を、大量生産し、短いサイクルで販売するブランドやその業態を指す (コトバンク)

「x x x x x x x (fast food)」になぞらえて作られた言葉

例) H&M、ZARA、GAP、Uniqloなど

流行を採り入れる (時に生み出す) が、流行に左右されない主力商品もつ

例) フリースジャケット、ダウン・ジャケット、ポロシャツなど

シーズンにおいて一定数の製品を作り、それを売り切るよう努める

人気の背景

高い機能性が安価で手に入る

例) フリース (温感性+軽量性有する新素材) など

デザイナーの個性に依存せず、気軽にオシャレができること

例) 上から下までのコーディネートが体系化されている

調達が楽

例) 店舗展開、広いサイズ幅、オンラインショップなど

グローバル展開

開発途上国でのビジネス展開

ソーシャル・ビジネス x x x x を含んだビジネス

バングラデシュの場合

グラミン・ユニクロ (Grameen Uniqlo) 2023年6月で終了

開発NGOのグラミン銀行と提携して店舗を展開

グラミン銀行 貧困層向け融資をおこなう非営利型銀行

現地貧困層を縫製労働者や店舗労働者として雇用

貧困層にも手が届く価格での製品提供

売上の一部を貧困層向け社会事業の費用に充てる

グローバル商品となる契機

Hauler (ホーラー)の影響力

ファストファッション商品の x x x x を熱心におこなう人

基本的には x x 圏に暮らす x x x x x が圧倒的に多い

「haul」は動詞で「引っ張る」の意味をもつ

名称は、ブランドロゴの入ったショップの紙袋から商品を引っ張り出して紹介する、という共通の仕草をもってつけられた

Haulerの狙い

インフルエンサー (influencer) となること

消費した商品を使って自身の**存在価値を認知**してもらうこと

YouTubeとInstagramすなわち **X X X X X**・**メディア**を駆使

アピールのポイント

自身の X X X

購入商品のセンスの良さ、すなわちチョイスした自分のセンスの良さ

一方で

X X X X ぶり

商品をリーズナブルに入手、バーゲンやアウトレットで安く手に入れること

演習1

YouTubeでHaulerによるファストファッション商品紹介映像を視聴

インフルエンサーCristine Rigaud氏のレビューチャンネル

<https://www.youtube.com/@CristineRigaud>

オランダ在住Cristine Rigaudさんによります、ZaraやH&Mなどのファストファッションブランドのレビュー動画チャンネルを紹介します。チャンネル登録者数は7000件ほどです。Rigardさんは、衣服のほかにも化粧品などのレビューも積極的におこなっています。

ファストファッションの悲劇

流行・人気のグローバル化

一方で

グローバルなレベルで問題をもたらしてもいる

- ・ 労働問題 搾取や差別
- ・ 環境問題 ゴミ山形成

開発途上国での製造

製造拠点：x x x x x の大都市

衣服や靴など製品のタグをチェック

ほとんどが「Made in 開発途上国」

x x x x x x x

世界随一の製造拠点



縫製工場の様子

出典:Fahad Faisal (2012) 「Garments Factory in Bangladesh」
CC BY-SA 3.0

問題の構造

低賃金・長時間労働

ほとんどの工場 $x x x x$ を $x x x$ で雇用
10-20歳代女性が縫製工として従事

なぜ？ **賃金（人件費）安い**

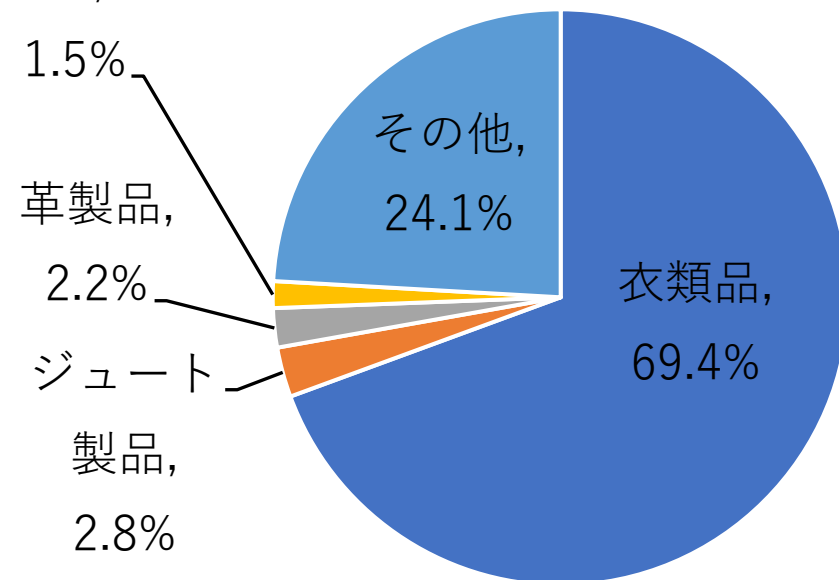
政府・財界 低賃金アピールし誘致に躍起

しかしこれは

未成年女子の大量雇用 低賃金強制で成立

つまり「 $x x x x x x x$ 」と「 $x x x$ 」もたらしている

2018年度バングラデシュ
主要輸出品目割合
(日本国外務省発表)



演習2

YouTubeでドキュメンタリー映画”The True Cost”トレーラー映像を視聴

映像タイトル：‘The True Cost’ - Official Trailer (2:34)

https://www.youtube.com/watch?v=OaGp5_Sfbss

2015年公開のドキュメンタリー映画「ザ・トゥルー・コスト(The True Cost)」は、開発途上国の縫製産業が、先進国のファストファッションを支えている陰で、様々な矛盾をもたらしていることを告発する作品です。モチーフとなったのは、2013年にダッカ市近郊で起こった縫製工場が入る雑居ビルの崩落事故です。この事故で多数の若年女性の縫製労働者が亡くなりました。原因は、安普請のビルの構造に、大量の重機械（産業ミシンなど）が入り、大量の労働者がいたことでした。

環境破壊～古着ゴミ問題

Haulerの影響も相まって

先進国中心にファスファッション製品は大量流通

だが所詮着る人間の数はしれている

つまり、大量の服が家庭で余ってしまう

そこで

各地の援助団体 x x x x 呼びかけ～大量の古着が集まる

開発途上国の x x x x x x x x x の成長～世界中から古着買い付け

問題の構造

援助やビジネスで集められる古着

大量の供給量に需要（古着を求める人）が追い付かない

たくさんの余剰が投棄される

場所： 浜辺 広大で投棄しやすい形状であるから

山奥や砂漠 公安や市民の監視の目をくぐれるから

帰結

波にさらわれ海中に浮遊 海洋生物生態に悪影響 X X X X

X X X X X X への打撃 など

演習3

古着ゴミによる環境破壊の実態をYouTube動画で視聴

The fast fashion graveyard in Chile's Atacama Desert (3:23)

https://www.youtube.com/watch?v=uyHgY2O__fY

古着ゴミ問題はアフリカからの報告が相次いでいますが、アフリカだけに限りません。今回はチリの砂漠のケースです。古着ビジネスでの売れ残り品、あるいは援助での寄付品が大量に残った場合、回収業者に高い金を払って引き取ってもらいます。そして業者は、公安や市民の目に触れない砂漠や山奥に投棄するわけです。映像にも出てきますが、ポリエステルなど有機化合物である新素材は、綿素材のように土に還りません。燃やすと有害物質ダイオキシンを発生し、人間やほかの動物の健康被害をもたらされます。つまり、始末の仕様もないことから、ダンピングされるままになります。

ゆたかさが悲劇を生む皮肉～まとめに代えて

ファストファッション

欧米すなわち先進国でそれは、ゆたかさのひとつの現れ
X X X X X X の X X と呼ぶにふさわしい

しかしそれは

アジア・アフリカすなわち開発途上国での X X の上に成立
つまり、グローバル化の歪みを体現

次回は

第10回は「グローバル化の光と影：公害の国際移転」と題してお話します。グローバル化の成果と問題点について、公害移転（国境を越える環境問題）を例にして理解します。工業製品に限定せず、農作物のモノカルチャー経済における健康被害も具体的なトピックにすえて検討をします。